

令和4年7月14日

令和4年7月 記者懇談会 冒頭挨拶

皆さんこんにちは。

本日は、ご多忙中にもかかわらず、お集まりいただき誠にありがとうございます。

記者懇談会の前に実施された、潜水土と機動救難士による合同潜水訓練と救急員養成訓練をご覧になり、如何でしたか。

彼らは、日々厳しい訓練を重ね、いざ海難が発生した場合には、強い使命感のもと、迅速な救助・救急活動を行い、尊い人命を救うことに全力を尽くしています。

- さて、本日の本部からの発表事項は、お手元の資料にあるとおり、
- 「災害時における相互協力協定」に基づく三機関合同訓練について
  - with コロナにシフトした夏到来！！「危険」は自粛してくれない!!と称して、海の事故ゼロキャンペーンと夏季安全推進活動期間について
  - 「海保」してみませんか？というキャッチフレーズで作成した学生募集ポスターの完成について
- の3点となっております。

1点目の、「災害時における相互協力協定に基づく三機関合同訓練」についてですが、本訓練は、自然災害時における迅速な救助と、電力や電話といった社会インフラの早期復旧を目的として、これまで、九州電力株式会社と九州電力送配電株式会社、及び西日本電信電話株式会社との間で締結された協定に基づき、実施するものです。

例年になく、梅雨は明けましたが、「梅雨の戻り」や「台風」、あるいは爆弾低気圧といった自然災害に対する警戒を怠ることはできません。

今回のような訓練を定期的を実施することで、参加機関の災害対処能力の維持向上を図ることとしております。

2点目の、「海の事故ゼロキャンペーン」についてですが、7月1日から31日までの間は「海の月間」です。

これは、国民が海に対する理解と認識を高めるために設けられています。

この「海の月間」という機会を捉えて、「海の事故ゼロキャンペーン」と称して、海に携わる人が一緒に海難事故を減らそうとするものです。

30数年前、私もこのキャンペーンを担当していました。

当時は「全国海難防止強調運動」と呼ばれていました。

その後、運動の呼び名自体も変わりましたが、「海難ゼロへの願い」というキャッチフレーズは変わることなく、続けられております。

本来であれば、事故がなくなり、キャンペーン自体もなくならなければなりません。

しかし、続いているということは事故がいつこうになくならないということです。

改めて、「海難ゼロ」を目指して各種対策を実施していきます。

あわせて、夏季レジャーシーズンに突入し、事故の発生が懸念されるところ、既に事故も発生しています。

このため、「海の事故ゼロキャンペーン」をキックオフととらえ、8月未までレジャー事故の防止を図ります。

3点目は、「海保」してみませんか？というキャッチフレーズで作成した学生募集ポスターの完成を、お知らせするものです。

現在、海上保安庁が直面する多岐にわたる課題に対応するため、巡視船艇などの体制強化が進められています。

去る6月30日に、三菱造船下関工場にて進水した巡視船あさなぎは、まさに体制強化の一環として建造されております。

一方、これら体制を支えるための人材の確保は急務です。

しかしながら、当庁の認知度の低さゆえ、当庁を目指す方が少ないのも事実です。

このため、より多くのかたに当庁を知ってもらうため、今回のポスターを作成しました。

私も名刺の裏にポスターと同じものを印刷しております。

1人でも多くの方が、我々の仲間となってくれることを願うばかりです。

私からは以上となります。